

私の歩みと出会い

私が初めて絆の会じぎょうしよの事業所で働き始めたのは27歳、今から20年も前の事です。

その前は、精神の病気をしてから、何か所か働きましたが、休みがちでやめてしまい、親からは「何で行かないの？」と何度も言われました。親と一緒に主治医の先生のところへ行った時、『先生、この子はなまけて仕事に行きません。どうしたらいいですか？』と母がたずねました。先生は「それが病気なんだ」とおっしゃいました。わたしは先生が味方をして下さったようでほっとしました。そんな日々が過ぎて喫茶りんどうで働き、その後、一般就労いっばんしゅうろうをへて、また絆の会のキャロットハウス、今の信州そば工房きずなで働くようになり、現在はそば工房きずなせき おに籍を置きながら、一般就労いっばんしゅうろうへの講習・訓練を受けています。ここまでは一言で語れないほど、良い事、嫌な事いや、そして多くの出会いがあり、それらをこえて、今の自分があります。今日は、それをふり返って、皆さんにお話しする時間をいただきました。私の体験を聞いていただければ嬉しいです。

私の病名は統合失調症はつびょうとうしよ げんじつです。発病当初は現実にはない音が聞こえました。東京で一人暮らしをしていた時です。アパートの上の階かいから、ガタガタと、引越しの様な音が1～2週間続いて内科へいきました。ところが精神科を紹介され、そこで「長野へ帰りなさい」と言われました。それではっきりと病気になったんだとわかりました。実はいぜんに精神科つとに勤めたこともありましたので、癌がんをつけられたようにショックでした。すぐに治ると思いたかったですが、現在までずっと薬を飲んでいきます。

私たちは病気があっても 人 それぞれ可能性を持っています。障害があるからあれもできない、これもできないと固定観念こていかんねんをもたないで関わって欲しいと思います。スタッフは私の悩みに対して一緒に悩んでくれますが最後は本人の決定を尊重そんちょうしてくれます。それは私にとってはとてもありがたいです。自分で決めるというのは勇気がいります。とても迷います。そういうときの揺らぐ気持ちゆを理解して欲しいし、最後に勇気を持って決めたことに対して、否定せずひていに応援おうえんして欲しいと思います。

私たちは精神の障害とくゆう 特有の波があるのでトラブルもたびたびありますが、私もみなさんから受け入れられています。頭が痛いとか、熱があるわけでもない。でも働きたいのに働けないときがあります。休む理由が見つからなくて悩みます。働きたい気持ちがあっても体が動かないのです。「本当に病気なの？」「病気に見えない」「なまけているのでは？」などとまわりから言われることがあります。とてもつらいです。この病気は見た目でわからないので、なかなか理解されません。初めにお話ししたように親にもわかってもらえないところがあります。

それで私は、作業所キャロットハウスで一生この仕事をしてここからどこへも行かないつもりでおりました。しかし、野菜加工やさいかこうの仕事がすごく減って仕事を変えなくてはならなくなりました。みんなで話し合っって新しい「そば」の仕事をスタートさせることができました。キャロットハウスの名称へんこうを変更して「信州そば工房きずな」の始まりです。そのとき出会ったボランティアさんは先生しんみのような存在ですが、私たちに親身になって、「そば」だけでなくいろいろな事を教えてくれます。障害者だからこれくらいでいいとは決して言わず、品質ひんしつの良い、どこよりもおいしいそばをつくろう、しかも売れる商品でなくてはなら

ないと、^{きび} 厳しい^{げんじつ} 現実を教えてくださいました。

このボランティアさんの「わたしは自分が、^{けいけん} いっぱい失敗してきた経験を皆
さんにお伝えしているだけです」という言葉がいつも私の心に残っています。
とても^{そんけい} 尊敬しています。また、先生として教えながらも仕事の細かい部分まで、
たとえば^{そうさ} 機械の^{ぶんかいそうじ} 操作や^{こな} 分解^{けいりょう} 掃除、^{きび} 粉や^{てきど} 水の^{けいりょう} 計量などすべて私たちにまかせて
くれます。その^{きび} 厳しい^{てきど} 現実が^{てきど} 適度な^{プレッシャー} プレッシャーにもなり、うれしくもあり、
やりがいに^{つう} 通じています。

ここ3年は週に1回^{けんちょう} 県庁のワゴンカフェでも働きました。県庁の職員に、
コーヒーやパンなどを各^{かく} へや^{まわ} を回って売ってお仕事です。作業所を出てビジネス
マナーを^み 身につけたことも今の私に大変プラスになりました。

たくさんの場所で働き、たくさんの^{けいけん} 出会いを経験して現在私はやってみたい
事が^{いっばんしゅうろう} 見つかりました。一般^{しゅうろうしえん} 就労へ向けて^{障害のある人} 障害のある人の^{しゅうろうしえん} 就労支援をしてい
るNPO法人「ゼロ」が行う^{かいごしょくいんしよにんしゃけんしゅう} 「介護職員初任者研修」に通って、^{くんれん} 訓練を受
けています。

私でも何か、人の役に立つ事、人に喜ばれるような仕事につきたいと思った
からです。^{かいご} 介護の^{じっしゅう} 勉強と^{おどろ} 実習を行っています。自分でも驚いています。毎日
が勉強です。すべてが勉強です。それが楽しいのです。

^{いぜん} 以前は^{りかい} 理解してもらえ^{かんきょう} る環境の中で仲間と話せたり、仕事をするのが楽し
かったのですが、

今は「私が高齢の利用者さんを理解したい」と思うように変わってきました。
^{あいさつ} 挨拶を返せない人にも^{あいさつ} ころから話しかけます。作業所では挨拶を返してくれ
ない人が^{はら} 気になりました。腹を立てて職員に^{いか} 怒りをぶつけていました。今、^{やさ} 優

しく話せる自分がうれしいのです。とても疲れますが、毎日、月曜から金曜まで6時間の^{くんれん}訓練をなんとかこなしています。今まで1週間に4日以上働いたことはありませんでしたが、5日間^い休みなく行っています。人の役に立っている事が見えるようなこの仕事は^{ぎやく}逆に利用者さんから元気をもらえるから^{かも}しれません。^{えがお}笑顔^{どうぐ}を道具^{かだい}に仕事^{かだい}をしています。これから^{かだい}まだまだ課題や問題が出てくる^{かも}もしれませんが^{もくひょう}目標^{もくひょう}に向かって、新しい自分を発見していきたいと思っています。

^{せいちょう}ご清聴^{せいちょう}ありがとうございました。